

初期臨床研修プログラム 倶知安厚生病院



初期研修医時代から
家庭医療を学ぶということ



初期研修支援事業
北海道家庭医療学センター

Hokkaido
Centre For
Family
Medicine





多くの先輩家庭医が支えてくれる Family Medicine Resident Forum (FaMReF)

期 間：3か月毎 土日2日間
場 所：1回郡部、3回札幌で実施
参加者：シニアレジデント・ジュニアレジデント



- ＜内容＞
- ◆ シニアレジデントによる症例発表とそれに対するディスカッション
 - ◆ 家庭医療のコアについて指導医によるレクチャーとディスカッション

しっかりとしたサポートで家庭医療を学ぶ 指導医による振り返り

【指導医訪問による振り返り】

期 間：年数回
場 所：倶知安厚生病院カンファレンス室
＜内容＞

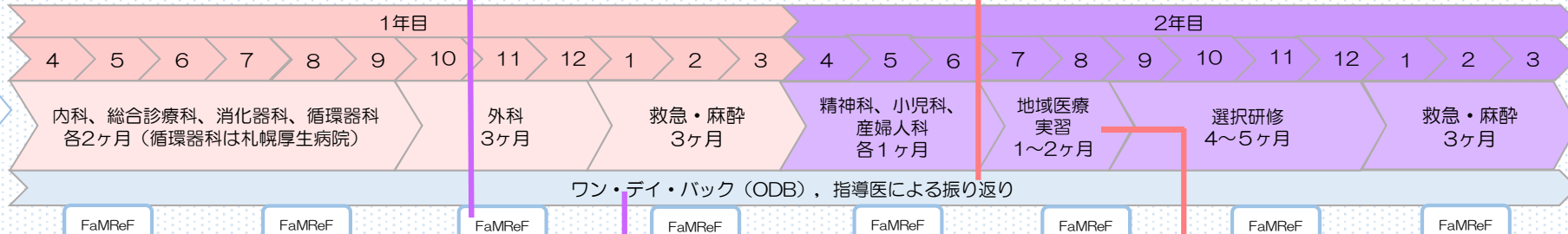
- ◆ 病棟研修における研修目標の評価とフィードバック
- ◆ 病棟研修指導医からのヒアリング
- ◆ 病棟で孤独となるケースも多いため、精神的なサポートも行う

【指導医による振り返り】

期 間：2～4か月に1回
場 所：Skype会議
＜内容＞

- ◆ 倶知安厚生病院・ワンデイバック先の研修目標・内容についての現状評価を行う
なお、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医が指導にあたります。

初期研修2年間 ローテーション例



期 間：各科ローテーション中に2週毎1日

＜教育目標＞

- 病歴や身体診察による情報収集能力の育成
- 医療面接技法の修得
- 一般的な症候や健康問題への対応能力の育成
- プレゼンテーション能力の育成
- DiseaseとIllnessの枠組みの理解とそれに沿った情報収集能力の育成

スケジュール例

8:30	集合
8:30～9:00	診療プレカンファ・診療準備 (担当患者カルテチェック、ポイント整理)
9:00～12:30	多職種見学／外来診療（1件～）、カルテ記載など
12:30～13:30	休憩
13:30～14:00	診療準備（担当患者カルテチェック、ポイント整理）
14:00～17:00	外来診療（1件～）／訪問診療（1件～）、カルテ記載など
17:00～17:30	休憩／カルテ記載
17:30～18:30	・コアレクチャー（1時間）or FMカンファレンス（30分） ・症例からの学び（30分）or ビデオレビュー（1時間）
18:30～	カルテ記載、自習

家庭医療を学ぶ ワン・デイ・バック(ODB)

9:00/14:00より外来診療開始。
ジュニアレジデントの診療時間15分、プリセプティングとその後の再診察で15分。計30分で一人の患者の診療を終えるシステム。



地域医療を学ぶ 家庭医療ローテーション

＜教育目標＞

- 病歴や身体診察による情報収集能力の育成
- 医療面接技法の修得
- 一般的な症候や健康問題への対応能力の育成
- プレゼンテーション能力の育成
- DiseaseとIllnessの枠組みの理解とそれに沿った情報収集能力の育成
- 家庭医療の実際の現場で働くコミューナルの動きの理解
- 診療所を取り巻く社会資源の理解

＜内容＞

- ◆ 家庭医療診療所における外来診療、訪問診療、病棟診療の実施
- ◆ FMカンファレンス、症例からの学び、ビデオレビュー（ワンデイバックと同様）
- ◆ 1か月研修目標の設定と振り返り
- ◆ コミュニカル体験実習、社会資源の把握と実習
- ◆ 経験できれば地域講演

期 間：2年間に1～2か月
場 所：HCFM内の各サイトで対応



＜コアレクチャー＞

家庭医療実践のコアとなる知識の習得が目的のレクチャー

＜FMカンファレンス＞

問題解決技法能力の向上（鑑別診断やEBMの基礎も含む）が目的のレクチャー

＜症例からの学び＞

疑問の定式化、疑問解決に必要な学習情報の選択方法、知識を症例で活用する方法の学びを目的としたレクチャー

＜ビデオレビュー＞

面接を主観的・客観的に評価することで、自らが日頃気付いていない面接の長所／短所を自覚し、面接能力を向上させることが目的のレクチャー



5つの機会を通じて倶知安厚生病院初期研修医に対する家庭医療学の教育を提供します。

1. オリエンテーション
2. ワンデイバック
3. FaMReF (Family Medicine Resident Forum)
4. 家庭医療ローテーション (室蘭/札幌/旭川/更別/寿都/上川)
5. 指導医訪問による振り返り

家庭医療研修の目標は、診療所で遭遇する一般的問題に親しみ、継続した診療、良好な医師-患者関係を経験する中で、医師としての基礎的な診断能力に欠かせない病歴や身体診察による情報収集能力、医療面接技法、一般的な症候や健康問題への対応能力を養成することにあります。

また、将来的に家庭医を目指す人にとっては、早い段階での家庭医としてのアイデンティティ形成、家庭医療専門医研修の基礎を築くことにもつながり、各科研修中の学習の主軸として家庭医療を常に意識することで、2年の研修に一貫性を与えることも可能となります。



<特徴>

初期臨床研修病院としては規模の小さい234床。対象人口は約3万人から5万人で、common diseaseを数多く経験できる。

内科系は消化器領域を除き、総合診療科が初診から入院治療まで対応。総合診療科での研修で幅広い疾患が経験できる。

内科系以外に外科・小児科・産婦人科・精神科・整形外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・麻酔科が院内で研修可能。

特に精神科は院外研修となる研修病院が多い中、院内に60床の病床を持ち、デイケアなども行っている。

院内に日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医がいます。

※内科研修の2か月は札幌厚生病院循環器科での研修を必修としている。また、2年目の選択で帯広厚生病院などICUを持つ医療機関でのローテーションも可能としている。

お問い合わせ先

JA北海道厚生連倶知安厚生病院



〒044-0004 虻田郡倶知安町北4条東1丁目2番地
TEL.0136-22-1141 / FAX.0136-23-3142
ホームページ: <http://www.dou-kouseiren.com/byouin/kutchan/index.html>

北海道家庭医療学センター

THE HOKKAIDO CENTRE FOR FAMILY MEDICINE



〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1番18号
TEL.011-374-1780 / FAX.011-722-9387
ホームページ: <http://www.hcfm.jp/>
E-mail: info@hcfm.jp